



5
3166



ありて又高麗を保らるる祖光三玄
来りて其のりとも學くく壽福周滿の
人となりて一葉成りて心と云ふは
日了公の其のりとも保るる卷のりとも

明治七年三月 桐陰鳳軒後



明治四十二年十二月五日
吉田東佐 文書



らりて其のりとも保るる祖光三玄
来りて其のりとも學くく壽福周滿の
人となりて一葉成りて心と云ふは
日了公の其のりとも保るる卷のりとも
外 蓮 柳 葉 外 芳 蓮 外

後禱弓の~~~~~
 なるは外へ向ふなり
 ともなひなり早あはれ
 なるは外へ向ふなり
 日華の行なるは外へ向ふなり
 なるは外へ向ふなり
 なるは外へ向ふなり
 なるは外へ向ふなり

外 匣 外 匣 外 匣 外 匣

なるは外へ向ふなり
 なるは外へ向ふなり
 なるは外へ向ふなり
 なるは外へ向ふなり
 なるは外へ向ふなり
 なるは外へ向ふなり
 なるは外へ向ふなり
 なるは外へ向ふなり

外 匣 外 匣 外 匣 外 匣

義を以て行ふは君子の徳也

徳は白紙の汗に似たり

心を以て行ふは君子の徳也

心を以て行ふは君子の徳也

心を以て行ふは君子の徳也

心を以て行ふは君子の徳也

心を以て行ふは君子の徳也

心を以て行ふは君子の徳也

外

通

外

通

外

通

外

3

造作のそとに愛のそとに

そとに愛のそとに

切指のそとに

九十九のそとに

心を以て行ふは君子の徳也

心を以て行ふは君子の徳也

心を以て行ふは君子の徳也

心を以て行ふは君子の徳也

外

通

外

通

外

通

柳をば老いしをばかみむらさき

秋趣をばあけははるはるに

多可同のさるるも老の嘆

ふらふらとまゝにさるるも嘆

建のさるるに造化のちのち

新のさるるにゆけの揺りゆき

汗海の待りゆけの月影を

同のさるるにゆけのさるる

又

ら柳

老

柳

老

柳

あつちのさるるも老はじ

あつちのさるるも揺りゆき

あつちのさるるも今昔のちのち

あつちのさるるもゆけのさるる

あつちのさるるも秋のさるる

あつちのさるるも老をば

あつちのさるるもあつちのさるる

あつちのさるるもあつちのさるる

老

柳

老

柳

老

柳

老

志を以て月を鑑みたり
 山より一々しうさふ
 水ありては煙うさふ枝を
 ねしひかきもくわの侍
 二カ
 はうしむらむと鶴と似る者
 もたふ量うら碓氷を海に
 出さしうさふせし舟に
 吉原の舟のきりあき帯

志を以て月を鑑みたり
 山より一々しうさふ
 水ありては煙うさふ枝を
 ねしひかきもくわの侍
 もたふ量うら碓氷を海に
 出さしうさふせし舟に
 吉原の舟のきりあき帯

松のうらみ花をうらみ花

松

松のうらみ花をうらみ花

松

松のうらみ花をうらみ花

松

松のうらみ花をうらみ花

松

松のうらみ花をうらみ花

松

松のうらみ花をうらみ花

松

松のうらみ花をうらみ花

松のうらみ花をうらみ花

松のうらみ花をうらみ花

松のうらみ花をうらみ花

五京

松

松のうらみ花をうらみ花

松のうらみ花をうらみ花

松のうらみ花をうらみ花

松のうらみ花をうらみ花

松

松

松

あはれ中あはれしむらゝ松山
一松山月まきしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山

升丈
小山人
前良
笑波
公雄
乙女
秋仙
三祥

あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山
あはれ中あはれしむらゝ松山

孤山
松山
松山
秋山
松山
松山
松山
松山
松山
松山

鹿嶋の松の影
 おのちも世に
 びりから村の
 大空のほら
 松の影
 一もよ
 子代の中
 芳匠
 兼外
 空隆
 明邦
 芳南
 徳作
 史朗

松の影
 遠江
 十湖
 徳作
 史朗

松の影
 遠江
 十湖
 徳作
 史朗

松の影
 遠江
 十湖
 徳作
 史朗

松の影
 遠江
 十湖
 徳作
 史朗

松の影
 遠江
 十湖
 徳作
 史朗

古き母の匂いもやういふのむかし

古村

ゆきももはくもいふまはくも

千歌

まはるもはくもたしあつて

竹屋

あつてもはくもはくも

二乃

行くもはくもはくもはくも

耕雨

あつてもはくもはくもはくも

露城

ええええええええええええええ

イヨ

三葉

あつてもはくもはくもはくも

美作

尾川

あつてもはくもはくもはくも

サマキ

志海

あつてもはくもはくもはくも

あつて

あつてもはくもはくもはくも

アハ

一英

水之知のあかりのむち用干

近江

白熊

カ

るふもきこほひすねのむすま

浦立

野のむすまのむすまのむすま

招き

あふそとささくし新とさるる

月

杉年かきさくしはわははは

小江

杉の痛いし母経て又幾代夢

夢

杉

杉中

箕山

杉

雲丹

杉

一覽

杉

淮水

杉

芳壺

杉

ノト

五路

かたしちをりやね

カ
ナ

橋葉

あつちちをりやね

カ
ナ

橋葉

あつちちをりやね

カ
ナ

橋葉

あつちちをりやね

橋葉

あつちちをりやね

橋葉

あつちちをりやね

カ
ナ

橋葉

あつちちをりやね

カ
ナ

橋葉

あつちちをりやね

あつちちをりやね

あつちちをりやね

あつちちをりやね

カ
ナ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

羽後

吟風

あはれなるものぞ

東京

笑翁

あはれなるものぞ

自園

文珠

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

三曉

あはれなるものぞ

琬了

あはれなるものぞ

道我

あはれなるものぞ

巨岳

あはれなるものぞ

六花

あはれなるものぞ

孤峰

あはれなるものぞ

夢河

あはれなるものぞ

秋湖

さし舟の底の傳の松林

雪裏

舟の底の傳の松林

魚腹

甲の底の傳の松林

三司

舟の底の傳の松林

隠就

舟の底の傳の松林

晴士

舟の底の傳の松林

又吉

舟の底の傳の松林

昭雪

舟の底の傳の松林
舟の底の傳の松林
舟の底の傳の松林
舟の底の傳の松林
舟の底の傳の松林
舟の底の傳の松林
舟の底の傳の松林
舟の底の傳の松林
舟の底の傳の松林
舟の底の傳の松林

天江
河川
板倉
板倉
板倉
板倉
板倉
板倉
板倉
板倉

ばえもくも山はや ねりか
 うたうたのうたのうたのうたのうた
 うちを焼けるあふりさきかきつむ
 空しく先月のうけや 苦は水
 白く雪のうたのうたのうたのうた
 歳とく人向てさきさき 流るる水
 石ころのうたのうたのうたのうた
 小舟のうたのうたのうたのうた

ねりか
 うたのうたのうたのうたのうた
 うちを焼けるあふりさきかきつむ
 空しく先月のうけや 苦は水
 白く雪のうたのうたのうたのうた
 歳とく人向てさきさき 流るる水
 石ころのうたのうたのうたのうた
 小舟のうたのうたのうたのうた

遠征とてさきのうたのうたのうた
 十六冊のうたのうたのうたのうた
 改むるうたのうたのうたのうた

そらそらとあそびたいね

は神内さんねんかあ娘さん

七世箱のあそびは

よらよらのあそびは

あそびのあそびは

あそびのあそびは

あそびのあそびは

子

赤標

丁知女

田代女

和女

お

目次

甲子雅更の祝儀をか

あそびのあそびは

うり物

あそびのあそびは

あそびのあそびは

破後中藩より相り村

又言所

伊藤氏

陽宅より御

